

企画展「徳川将軍家へようこそ」開催のお知らせ

平成29年8月11日(金・祝)～9月24日(日)

関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康が、征夷大將軍の宣下を受け、江戸幕府を開いたのは1603年(慶長8)のことです。家康は將軍職を2年で息子の秀忠に譲り、それ以降將軍職は徳川家によって代々世襲されました。

徳川将軍家を中心に幕府と諸藩が統治を行なった江戸時代は、戦いのほとんどない時代です。その260余年の歴史のなかで、漆芸、染織、金工など数々の匠の技は精緻を極め、見立てや遊び心などの多彩な美意識も育まれて、生活様式や文化に大きな影響をもたらしました。

本展では、公益財団法人徳川記念財団が所有する徳川宗家伝来の資料の中から、歴代将軍ゆかりの品々を展示し、15代にわたる将軍たちと徳川将軍家についてご紹介します。

1 会期

平成29年8月11日(金・祝)～9月24日(日) ※会期中一部展示替えがあります。

・開館時間:午前9時30分～午後5時30分(土曜日は午後7時30分まで)※入館は閉館の30分前まで

・企画展開催中の休館日:8月21日(月)・28日(月)、9月4日(月)

・8月11・18・25日(各金曜日)はサマーナイトミュージアムのため、午後9時まで開館。サマーナイトミュージアムでは、午後5時30分から午後9時まで常設展観覧料が学生、中高生無料/一般・65歳以上は団体料金(要証明)

2 会場

東京都江戸東京博物館 常設展示室内 5F 企画展示室

3 観覧料 企画展は常設展観覧料でご覧になれます

(1)一般	600円(団体480円)
(2)大学・専門学校生	480円(団体380円)
(3)中学生(都外)・高校生・65歳以上	300円(団体240円)
(4)中学生(都内在学または在住)・小学生・未就学児童	無料

* ()内は20人以上の団体料金。消費税込。

4 主催

東京都、東京都江戸東京博物館、公益財団法人徳川記念財団

5 展示構成および主な資料

プロローグ 武家の棟梁 — 葵三代 —

戦国の乱世を治めた徳川家康(いえやす)は、慶長8年(1603)に征夷大將軍に任ぜられ、江戸に幕府を開きました。家康は將軍職を息子の秀忠(ひでただ)に譲り、戦国期以来の下剋上の風潮を否定します。

江戸幕府は、元和元年(1615)に大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼし、泰平の礎を築きました。初代家康から3代家光(いえみつ)の時代までの40年間で、幕藩体制の基礎が形成されていったのです。

江戸幕府の支配体制を確立した将軍、家康・秀忠・家光について焦点をあてます。

第1章 将軍のすがた —徳川の平和—

5代綱吉(つなよし)以降、幕府の政治は儒教に基づいて、徳を修め、法の整備と教化の充実によって国を治める「文治政治」へと転換しました。8代吉宗(よしむね)は享保の改革によって、国全体の統治を行うための制度を整え、「幕府中興の祖」と呼ばれました。

江戸は18世紀初頭に百万人を超える世界第一都市となり、五街道を中心とした街道が整備されました。11代家斉(いえなり)の治世が始まる頃からは、日本沿岸に異国船の来航が相次ぎ、江戸幕府は諸外国への対応に迫られることとなります。

徳川宗家伝来の資料を通して、将軍の人となりや役割について考察します。

第2章 大奥のみやび —篤姫と和宮—

江戸城本丸御殿には儀式、謁見の場である「表(おもて)」と将軍が日常執務を行う「奥(おく)」とがあります。大奥はその「奥」の最奥に位置し、将軍にとっては、正室(御台所(みだいどころ))とともに世子を養育することで、家の存続をはかる役割をもち、一方、正室や将軍生母にとってはプライベートな空間でもありました。

狩野派の絵師が描いた屏風をはじめ、幕末の大奥を彩った御台所の装いや所用の品々を通して、華やかな大奥の様子を紹介するとともに、江戸城開城に際して、徳川家存続に貢献した天璋院篤姫(てんしょういんあつひめ)・皇女和宮(かずのみや)の人物像を紹介します。

第3章 激動の幕末 —家茂の決意、慶喜の決断—

14代家茂は朝幕関係修復のため、仁孝天皇の皇女和宮(かずのみや)と婚儀をあげました。朝廷と幕府の結びつきを強めるよう努め、幕政改革に取り組んだ家茂でしたが、長州戦争中に大坂城で病没します。その後、慶応2年(1866)に徳川宗家を相続し、15代将軍となった慶喜は、欧米諸国との友好関係を築く意欲を示し、開国への転換を進めました。兵庫開港勅許以降、対幕強硬論が高まりを見せるなかで、慶喜は朝廷に政権を返上することを決断します。王政復古の号令により、明治新政府の成立が宣言されました。

近世から近代へ移行する激動の幕末期に、将軍職を務めた14代家茂・15代慶喜について紹介します。

エピローグ 家名相続 —新たな時代へ—

戊辰戦争に敗れた徳川宗家は存亡の危機におちいりました。しかし、誕生して間もない明治新政府にとって、内政を安定させ全国統治を図るためには、徳川家名相続を認め、その跡継ぎを決定することが必要でした。松平確堂(齊民)による後見を得て、徳川宗家第16代当主となったのは、当時6歳の田安亀之助(たやすかめのすけ) —のちの徳川家達(いえさと)です。駿河府中藩70万石の当主として静岡に移った家達のもとで、徳川宗家の新たな時代が始まりました。

主な展示資料



東照大権現霊夢像(狩野探幽筆)
(徳川記念財団蔵)



銀細工 献兎賜盃
(徳川記念財団蔵)



武蔵野富士図(酒井抱一筆)
(徳川記念財団蔵) **初公開**



かきつばた けいりゅうあゆ
燕子花に水草・溪流 鮎 図夏屏風(両面)
(右隻/表)(徳川記念財団蔵) **初公開**



小袖 萌黄縹子地雪持笹御所車文様
葵紋付
(徳川記念財団蔵)



徳川慶喜像
(徳川記念財団蔵)



駿河府中城主七十万石下賜沙汰書
(徳川記念財団蔵)



徳川家名相統沙汰書
(徳川記念財団蔵)



駿河藩印
(徳川記念財団蔵)

7 関連イベント・その他

■ミュージアムトーク(みどころ解説)

【日時】8月11日(金・祝)・18日(金)・25日(金) 午後4時～(30分程度)

【集合場所】常設展示室内5階 日本橋下にお集まりください。

企画展「徳川将軍家へようこそ」の広報に関するお問い合わせ
 東京都江戸東京博物館 管理課 事業推進係 担当:田中、丸山、長屋
 〒130-0015 東京都墨田区横網一丁目4番1号
 TEL:03-3626-9907 FAX:03-3626-8001
 E-mail:kouhou@edo-tokyo-museum.or.jp